鳥獣被害

檻罠監視端末を増設

NTTテレコン 青森県平内町で

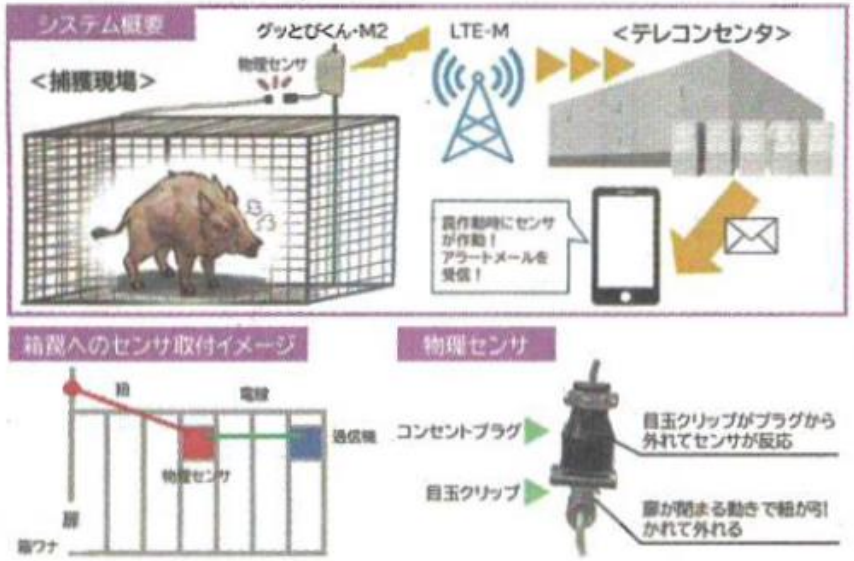
NTTテレコン（本社・東京、深澤充社長）の東北支店（仙台市、竹谷金浩支店長）は今春、鳥獣害対策の効率化を目的に青森県・平内町に敷設していた檻罠監視システムに効果が認められたことを受け、新たに専用端末を7台増設する。町内の対象エリアに設置される予定。

昨年は鳥獣被害として熊が人の生活圏まで脅かし、昨年11月時点で死者13人、負傷者217人以上が報告され、統計開始以来最悪を記録した。東北地方を中心に北海道から関東甲信エリアでも熊の出没があるなど、対策は急務となっている。

同社の檻罠監視システムは、遠隔地に設置された檻罠の作業状況（物理センサ）を、グッとびくん・M2端末とLTE―Mネットワークでテレコンセンタを介し、スマホなどにアラートメールを送信する。

離れた場所に居ながら確認できるため、毎日の現地確認が不要になり、見回り回数が約半分で済む。加えて、捕獲状況を事前把握できるため、不用意な接近を防げ、安全性も高まる。誤作動が少なくリアルタイムで捕獲状況が確認できるうえ、メンテナンスも容易なため、安定した運用を実現する。

罠箱、コンセントプラグと目玉クリップで構成する物理センサ、通信端末で構成する。罠箱の扉が閉まる動きで紐が引かれることで、目玉クリップがコンセントプラグから外れてセンサが反応する。通信端末はセンサと有線で接続するだけで済み、設置も容易だ。

平内町は2024年6月から同システムを先行導入し、その運用実績から有効性が確認できたことから、今般端末を追加導入することにした。鳥獣害対策のさらなる強化を期待している。

檻罠監視ソリューション